

自然感

くすのき

宇美八幡衣掛の森



季節感

仰おげば～尊し...

この花の香りは卒業式の思い出に強く結びつく！

『沈丁花』

平成19年2月27日

福岡市西区飯盛文殊堂

大塚俊樹



イベント情報

鎮守の杜シリーズ 西公園〔光雲(てるも)神社〕観察会のお知らせ

桜の花がちり、新緑になりつつあるかも。そんな中をゆっくりと歩きつつ、観察会で使うと便利な小道具の紹介をしたいと思います。観察会で重宝している小道具をお持ちの会員さん、協力をお願いします。

観察日 2007年4月14日(土) 雨天決行

集合場所と時間：光雲神社拝殿前に13時30分、16時頃まで

主催 ナイス福岡 担当 田村耕作

申し込み不要、当日集まって下さい。

場所は、地下鉄空港線の大濠公園駅が便利です。

西公園内には駐車場も有ります。



熊洞居人独言

3月、早春の候である。しかし初めの数日間は暑かった。4日には日中の最高気温は23.9であった。これは5月中旬の暖かさである。しかし、5日を過ぎると急に寒くなった。6日には日中の最高気温は7.0までしか上がらなかった。これは真冬の寒さである。この3日間の気温差は実に16.9である。これはまさに異常気象現象である。今年の冬は寒い日が少々あったものの、全般的に異常に暖かく、降雪量は異常に少なかった。東京は雪の日が全くなかった。初めての記録だそうである。

この異常気象の直接の原因は、赤道付近の太平洋上で時々発生するエルニーニョ現象の為であると考えられている。この為、冬場にもかかわらず太平洋高気圧が異常に発達し、日本の南方海洋上で大陸高気圧からの寒気の吹き出しを押し込んだためとされている。これだけを見ると地球上の局地的な現象とも捉えられる。しかし、近年はこの局地的現象だけでは済まなくなっている。北米大陸を見ると、年末から年初に掛けてのニューヨーク付近の異常高温、11月下旬からのカナダ西岸バンクーバー付近での過去に例がないほどの豪雨と豪雪、今は夏であるオーストラリアの異常高温、最近のインドネシアでの度重なる豪雨災害等々、地球全体では例を挙げればきりが無いほどの異常現象が見られる。これらの現象から考えると、地球温暖化がいつに本格化してきたと言えるのではなからうか。

そこで、私たちにどのような対策が取れるのだろうか。

#12

”二酸化炭素の排出量を減らす。”最も基本的な対策であるが、毎日の中でどこから取り組めばよいのだろうか。

今、クマの手元には県が作成した「環境家計簿」なるものがある。

1年間の記録から、各家庭からの二酸化炭素排出量をチェック出来るようになっている。こんな所から始めるのも一つの方法である。

皆さんも如何かな？



国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)総会開催記念公開シンポジウム

サンゴ礁保全のためのパートナーシップ～「国際サンゴ礁年」に向けて

とき:平成19年4月22日(日)14時から18時まで

会場:立教大学/池袋駅の近く

主催:環境省・立教大学

申し込み先:サンゴ礁シンポジウム事務局 E-Mail:sango@grp.rikkyo.ne.jp

fax 03-3985-2458

問い合わせ:03-3985-4674(平日)



観察会の報告



2月25日、小都市三沢の簡保レクセンター跡地にて、アカガエルの卵塊の観察会を行いました。当日は急に冬になったようなお天気でしたが、沢山の卵塊やおタマジャクシ、ヤゴなどを観察しました。15人の大人のみでの参加でしたが、皆心は子どもですね。参加された皆さん、ありがとうございました。次回は3月31日です。そうそう、お孫さんやお子さんのいらっしゃる方、今度はどうぞお連れください。

三国丘陵の自然を楽しむ会
代表 松永紀代子

有明海講演会
豊饒の海 有明海
～筑後川からの贈物～

日時 平成19年**3月31日(土)** 13:30～15:30

会場 福岡市健康づくりセンター「**あいれふ**」10F 講堂
福岡市中央区舞鶴 2丁目5-1 (地下鉄有明線有明駅下車、徒歩約4分)

入場無料
定員120名
(事前申込制)

講演
有明海の食にまつわる話題を中心に有明海の魅力をつぶりと語っていただきます。
「有明海はおいしい」
エッセイスト
筒井 ガンコ堂氏

講演
有明海が育んできた魚類、貝類等を中心に、世界でも類をみない有明海のいきもの達を語っていただきます。
「有明海のいきもの」
佐賀県有明水産振興センター
野口 敏春 所長

主催
NPO法人有明海再生機構 TEL・FAX 0952-26-7050 〒840-0833 佐賀市中の小路 4-30 高取ビル
【メールアドレス】E-mail:npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp 【ホームページアドレス】URL:<http://www.npo-ariake.jp/>

日本野鳥の会福岡支部 主催

参加費：100円（中学生以下無料）

3 / 11 (日) 4 / 8 (日)
和白海岸探鳥会（福岡市東区）
時 間：9:00～12:00
集 合：JR 和白駅前公園
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

3 / 18日(日) 4 / 15 (日)
天拝山探鳥会（筑紫野市）
時 間：9:00～12:00
集 合：天拝山歴史自然公園
問合せ：092-920-7112（山本勝）

3 / 24 (土) 4 / 28日(土)
久末ダム探鳥会（福岡町）
時 間：9:00～12:00
集 合：久末ダム多目的広場横駐車場
（管理事務所下）
問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

4 / 1 (日)
今津探鳥会（福岡市西区）
時 間：9:00～12:00
集 合：玄洋高校西側道路
問合せ：092-891-9005（神園道男）

4 / 14 (土)
大濠公園探鳥会（福岡市中央区）
時 間：9:00～12:00
集 合：ポート乗り場前
092-573-1827（森健児）



日本野鳥の会筑後支部 主催

参加費：100円（中学生以下無料）URL:<http://mamewari.blog.ocn.ne.jp/>

3 / 11 (日)
高良山探鳥会（久留米市）
時 間：9:00～13:00（要弁当）
集 合：三井小学校
問合せ：0942-78-5896（米田）



3 / 25 (日)
濃施山公園探鳥会（高田町）
時 間：9:00～
集 合：公園内すいせん橋
問合せ：0944-58-1672（野田）

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

3 / 31 (土)
自然観察会と生物記録会
跡地が一番にぎやかな季節です。
各自自由に歩いていただき、お好きなものの記録や観察をしてください。

時 間：9:30～お昼頃（延長可）
集 合：簡保レクセンター跡地正門
問合せ：092 - 920 - 3072（松永）
要：保険料・駐車場代（小銭）



久留米の自然を守る会 主催

和白干潟を守る会 主催

3 / 24 (土)
守る会定例会議
時 間：10:30～12:30
集 合：和白干潟を守る会事務所
問合せ：092 606 5588（田中貞子）

3 / 24 (土)
クリーン作戦 と自然観察会
時 間：15:00～17:00
集 合：海の広場 駐車場なし
長靴・軍手があると便利
問合せ：092 661 1594（田辺）

3 / 25 (日)
第342回例会
筑後川春の野草を楽しむ会
時 間：9:00～15:00
集 合：筑後川発見館
参加費：400円
共 催：筑後川まるごと博物館
持参物：ごはん、おはし、おわん、
水筒
問合せ：0944-42-1942（金原優子）
野草の事前採集は24（土）柳阪バス停13時集合、16時解散

福岡植物友の会 主催

詳細は：092-947-6536
（大吉博子）

福岡市油山自然観察の森 主催

往復ハガキでの申込方法はハガキに「行事名・行事実施日・住所・氏名・年齢・電話番号」を記入の上、自然観察センターまでお送り下さい。

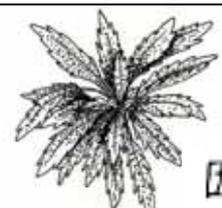
3 / 18 (日)
春支度の油山・
しぜん発見ハイキング
春の訪れを感じながら、楽しく森を散策します。

雨天実施
時 間：10:00～13:00
対 象：一般・定員なし
申込み：不要 9:30から受付

3 / 21 (水/祝日)
親子森のよもぎ団子づくり

早春の森の様子を楽しみながら、よもぎ団子をつくります。雨天実施

時 間：10:00～14:00
対 象：4歳～12歳までの子どもと保護者20人
申込み：往復はがき3/13必着
参加費：400円



問合せ：油山自然観察センター
参加費：1000円
〒811-1355
福岡市南区桧原夫婦石 855-1
TEL：092-871-2112
開館 9:00～16:30（月曜休館）



参加者の一言

- ・ いろいろな見方があることに気づいた。
- ・ はじめてアリジゴクをみる事ができた。
- ・ 参加して良かった。
- ・ 昔に比べて、人の手が入って悲しい。
- ・ 観察の仕方の違いがわかってよかった。
- ・ なんでもかんでも観察したい。
- ・ 冬芽の観察が楽しかった。
- ・ 冬の植物観察もいいですね。
- ・ 陸性の貝の観察が楽しかった。
- ・ 西公園にはじめて来ました。
- ・ 冬の昆虫が勉強になりました。
- ・ 新たな発見がありました。
- ・ 観察会、良い機会になりました。
- ・ ピンズイが観察できて良かった。
- ・ 西公園の楽しさ、再発見しました。
- ・ 楽しかった。
- ・ 参加者の多さにびっくりした。
- ・ 初めの一步、踏み出すきっかけになったのでは。
- ・ 楽しんでます。
- ・ 何回も来たいです。



田中 健二

「昔、若い頃、デートスポットであった、西公園を、今回の観察会で、久しぶりに訪れてみると、その変わり様に、びっくりした。正に人工的な市民の憩いの公園と云ったところではあるが、そうわいっても、まだ自然のままの森が残っているのに、なにかしらホットした。植物や、野鳥、虫、蛾等、色んな分野の話が聞けて、面白く、為になった。特に、公衆トイレ、特に女子トイレの中まで、侵入し、蛾の観察をしたのには、びっくり。指導員の熱心さに感服した。これからも今回みたいな、沢山の方の参加しやすい観察会を、企画して頂きたいものです。~田中健二~」

久しぶりの自然観察会 福岡市城南区 河野博明
 2月10日(土曜)の午後、私は、NAIS-FUKUOKA事務局の田村さんらの企画による福岡市西公園での自然観察会に参加しました。前回(自然観察指導員講習会受講)が昨年11月の連休でしたから、実に3か月ぶりのことです。自然観察指導員の卵たる私たちに実戦の機会を積ませてあげるべく計画されたありがたい催しの趣旨と徐々に仲間に見える楽しみが胸中で混在し、集合場所の光雲神社に向かう私は、心がいささか高ぶるのを覚えました。
 神社前には、既に十数人の方々(一般を含む参加者最終合計20数名、うち講習会受講生10名)が集まっており、隣の席で学んだIさんや後ろの席にいたNさんなどの懐かしい顔も見えました。NACS-Jの腕章を左腕に着けると気恥ずかしさ半分、気負い半分といったところでした。そして偶然にも、講習会の野外実習で諸々お教えいただいた堀さんがいらっしゃり、広大な園内を彼の後について回ったのですが、独特の切り口による説明に何度もうなずきっぱなしでした。説明や観察の手法は各人各様であり、決まりきったものなどないという趣旨の話もされましたが、場数を踏んで研究もしなければその言葉は出てこないと自戒したものでした。今後、できるだけ各地の観察会に出かけて心技を磨き、まずは卵から幼鳥そして成鳥へとほばたいていきたいと考えています。NAIS FUKUOKA会員の皆さん、どこかの自然観察会では是非お目にかかり、情報交換しましょう!
 終わりに、貴重な一日を私たちに提供いただいた田村さんほか事務局の方々に、改めて深く感謝申し上げます次第です。

鶴田義明：おつかれさまでした。私の場合は、周囲の質問などに応える程度で話しましたが、主なものは、
 葉痕と冬芽の観察(ルーペ&ファールにて) ムクノキ、ツバキ、イヌビワ、トベラ、フジ、ヤマザクラ、ソメイヨシノほか
 落ち葉の観察(クリとクヌギの見分け方等)
 つる性植物の巻き方(右巻きor左巻き?)
 天然林と二次林について
 樹皮と形成層について
 照葉樹林帯の構成樹木たちについて
 などを夫々の樹木を観察しながら少しお話ししました。
 草本では、ロゼットの葉や、寒さに耐えながら咲いているタチツボスミレやハコベなどの可憐な花もしっかり観察出来てよかったです。
 参加者各位の熱意がひしひしと感じられ、皆さんと一緒に和気あいあいのとても楽しい観察会でした。ありがとうございました。
 鶴田自然塾 (^ o ^) /"

福田 治のめも 西公園の観察会、お疲れ様でした。

以下、見かけた昆虫他のリストです。よろしく。

2007.02.10 PM13:30 - 16:00

カブトムシの幼虫: 光雲神社右手の伐採木の積んである場所に幼虫の糞が見られた。寺社林での枯木や風倒木は境内や裏手などにこびんであることが多く、不朽下これらの材の下部はカブトムシの幼虫の良い発生場所になっており、かなりの市街地の中の寺社でもカブトムシが見られる。

コシアキトンボの死骸: 昨年夏に公衆トイレに紛れ込み、クモの巣に絡まっていたコシアキトンボの死骸があった。

ムラサキシジミの食痕: 雑木林の中、アラカシの根際から伸びる新梢についているはずの葉がすっかり食べられているが、これは昨年中にムラサキシジミの幼虫が食べた痕跡である。

クモの卵のう: 雑木林の下生えの植物の葉裏。黄色のものと、白のものが見られたが、黄色いほうは多かった。

キジラミの幼虫: 雑木林の下生えの植物の葉裏。カメムシ目キジラミ科の一種。チャタテムシとアブラムシを足して二で割ったような格好をしている。今回見つかったものはその幼虫で、微細な個体。植物の新梢に集団で集まり、汁を吸う。

ハラビロカマキリの卵鞘: ネズミモチの枝先にハラビロカマキリの卵鞘が2個みられた。自然環境の豊かな(餌となる昆虫の豊富な)場所の卵鞘は大きいですが都会では小さくなったり、の卵巣の成熟が遅れる傾向にある。ハラビロカマキリは結構都心部の公園でも見られる。

ウスバカゲロウの幼虫(アリジゴク): 雑木林の中の散策路脇の崖にはえている樹木の根際の陰の土に何個もの杯状の巣が見られ、中にアリジゴクが入っていた。巣の構造ががきちんとしていたので、冬でも活動しているに違いない。

蛾数種: 公園内の公衆トイレに照明に誘引されて飛来したと思われる蛾が数種見られた。

『シモフリゲエダシャク』 現地でシロオピフユシャクとした説明は、離れた天井近くだったので見間違いでシモフリゲエダシャクが正解。冬の終わり～早春にのみ現れるシャクガ科の一種。

『チャエダシャク』 シモフリゲエダシャクと同様に冬の終わりに平地から山麓を中心に現れるシャクガ科の蛾。

『フラスズメ』 ヤガ科の蛾。幼虫はカラムシを食べ、成虫は夜間樹液に集まる。成虫で越冬し、冬でも暖かい晩には灯火に飛来する。

ヒメバチの一種: 公衆トイレの中で1頭見られた。ヒメバチは主にチョウやガの幼虫に寄生する。夜に 灯火によく集まるので、トイレの灯火に来たのだろう。

ヨモギハムシ: 早春～春に良く見られるハムシ。観察者にその名前を推理してもらった。

とまっていた植物は? 「ヨモギ」

とまっていた場所は? 「葉」

とまっていた生き物は? 「虫」

答えを全部つなげると? 「ヨモギ・ハムシ」



大塚俊樹 西公園「光雲神社」観察会について

遅れて来て参加、そして早退しましたので、いまいち参加者の方々と馴染めない感じがして申し訳なく思っています。その上で数人に話をしたのは、(1)五感を研ぎ澄まして歩くと色いろな事が見え、聞こえてくる(2)目線の高さを変えて見ると見えなかった物が見えてくる、具体的に大木の根と根の間の地面の上に粗く張り巡らされた、ある種の『地グモ』の糸、地面に顔を近づけると光って見え、暖冬の性かこの季節に活動しているのが解る。 などなど...

田村耕作のめも

伐採された樹木が積まれている場所、「カブトムシの幼虫の糞があり、この樹木の下に幼虫がいますよ」と福田さん。皆さんにこういう状態を覚えておいてくださいと付け加えました。

ムクノキの大木の幹がだいぶ朽ちていました。そこをいろいろ探し、キセルガイの仲間や小さなカタツムリ(マイマイ)の仲間を発見、じっくりと観察。また戻しました。カクレミノの葉の裏にあったコマユバチのまゆのヌケガラを拡大鏡で観察。カイコの繭のようでした。

ヤブツバキの仲間花の軸の部分赤いチョウセンツバキの識別の話を徳永さんがしてくれました。ヤブツバキもいろいろあるようです。

ハラビロカマキリの卵囊(黒っぽい色で大きさ短め)がネズミモチの枝先で見つかりましたが、結構高い位置でした。雪国では、積雪量と卵囊の位置の関係が有るとのことですが、福岡では関係ないのでしょうか。

ヤマザクラとソメイヨシノの冬芽の違いを拡大鏡を用いて、鶴田さん、さわやかに楽しく解説あり。ソメイヨシノの冬芽には冬芽の先に毛がたくさん有りました。

セキレイの仲間ピンズイを観察。他にコゲラ・シロハラ・ツグミ・キジバト・トビ・スズメ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・シジユウカラの囀りなど。

冬だけに活動するエダシャクという蛾の仲間、福田さんの解説。場所はトイレ。男子トイレの蛾は雄でした。ついでに女子トイレは雌でしょうかの冗談。確認してもらったところ、雌雄不明のフラスズメという蛾を発見。

余談、どちらのトイレもみんなで入りました。

シイの大木の幹に大きな縦皺あり。その隙間にハゼノキ・クスノキ・クロガネモチなど他の種が宿っていました。



山本 勝のめも

今日は、大勢の方が来られて、夫々が楽しんでおられたのが印象的でした。少し気になったのは、ベテランさんを先生とする輪があちこちに出来ている中、結局いつもと同じメンバーで回っておられる方もいて、普段と違うメンバーと交流する感じではなかったようで、少しもったいないなあと思いました。

【参加者とお話したこと】

- 1、カラスの声：濁って聞こえたらボソ・・とは単純にいかないこともある。おでこと嘴の角度やなく姿勢などとあわせて考えたらよい。あわてて名前にこだわらないほうが良いと思う。
- 2、樹幹のすき間が綺麗でしょ。
ぼっかりあいた空間は何故出来たと思いますか。
その空間に将来伸びていく樹はどれでしょうね。
- 3、「むかで」は木の葉の下にいて、小さな虫など食べています。自然界では当たり前にいる虫なのに、街の花屋さんなどで害虫扱いの殺虫剤を売っているのは、まるで悪者扱い。売り方も自然への思いやりが欲しいところです
- 4、ササの葉裏にいた??。Fさんによると、キジラミの幼虫かもしれないとの事。皆さんにも観ていただきました
笹原には、ダニ等も多くいて、獣の通るのを待っているようですよ。
- 5、カクレミノの葉の形で、切れ込みのあるものとなないものの変化の仕方の推測を楽しむ。

参加者とお話した事および観察のメモ(山本寿美子)

- 1、巻貝の形成状態で、成熟かどうか。
- 2、コシアブラの大樹
- 3、ムクゲの種の毛。何故?
- 4、ろうそくの材料は、ハゼの実のどの部分か。
- 5、その他：桜の芽(ヤマザクラとソメイヨシノ)の比較、ムクノキの葉痕、ミミズバイの葉裏についた卵、シャシヤンボの葉、地面の落ち葉をめくると、ネズミモチの枝にハラビロカマキリの卵のう、カブトムシ(幼虫)の糞、アリジゴク、ムカデ、モリチャバナネゴキブリ、トンガリキノコ、カクレミノの大樹、ピンズイ、シジュウカラの囀り、シロハラ、スズメ、トビ、ハシボソガラス



2007九州環境教育ミーティング福岡大会が終わりました。

九州環境教育ミーティング実行委員会代表杉浦嘉雄さんの挨拶文から一部引用して掲載させてもらい、報告とさせていただきます。文責 田村耕作



福岡大会が全て無事終了し、また、大会参加者の多くの方々から、分科会「駅」周辺での協働体験はじめ大変得るところが多い大会であった！とお話し下さり、大変喜んでおります。

この成功は、一緒に創りあげようとして下さった参加者や実行委員の皆さん、なかでも事前に何回も足しげく通われた地元福岡の実行委員の皆さんのご努力のお陰であると確信しております。

本当にお疲れ様でした！そして、本当に有難うございました！

また、今大会では、地元関係者の皆さんによる「ミーティング」とは別の新組織が、ワークショップの諸成果(気づき情報・発想・企画など)を引き継ぎ、さらにバージョンアップをすることで、地元(地下鉄「七隈線」周辺)イベントの実現や「持続可能な地域づくり」への戦略的提言を行なっていきたい！との声が上がりました。さらに、その提案に対し大会参加者全員の積極的な承認がありました。これらのことは、大会での成果がより多く地元還元されることが予想でき、おおいに期待しております。

今回は、いよいよ「鹿児島大会」です。

2007年3月3日付
朝日新聞
オピニオン面
「私の視点」から

日本の天然林を救う 全国連絡会議 の紹介

<http://www.geocities.co.jp/tennenrin461/nicol.html>

2006年12月5日に発足した「日本の天然林を救う全国連絡会議」(天然林を救う会議)の目的は、林野庁による天然林伐採をやめさせること、それによって日本の森を守ることです。当面の活動内容として、憲法16条が定める請願権により、天然林の管理を林野庁から環境省に移して守ることを、署名を添えて国会と内閣に求めています。これは法治国家の正当なルールに基づいて良識ある人々の声を届け、行政の誤りを是正する国民運動です。



C・W・ニコル

作家、「日本の天然林を救う全国連絡会議」呼びかけ人



「日本の天然林を救う全国連絡会議」呼びかけ人

樹園を荒らすようになった。一方で林野庁の赤字は3兆8千億円に達し、98年に「抜本改革」が行われた。2兆8千億円を税金で処理し、残りの借金は自前で返していくことになった。だが、返済どころか、1兆2800億円にま

よとしない。これは犯罪だ。なぜこのような浪費と自然破壊がまかり通るのか。本来なら、司法の場で原因を究明し、責任有りと判断された者には、しかるべき処罰も科すべきだ。今こそ思い切った改革が必

巨額の赤字は帳消しにせざるを得ない。今後、税金は林業の専門家たちによる森林再生に充当する。放置された人工林を間伐し、手入れをして、針葉樹の単一林を豊かで生産力のある混合林へと作り替えていくのだ。

現在の林野庁

にも、職務に心血を注ぐ誠実な人々はいらぬ。我々国民が一丸となり取り組みを支援し、力を合わせて、真に「美しい日本」をよみがえらせようではないか。

◆天然林

伐採やめ環境省に移管を

要だ。林野庁には天然林の保護も活用もできないことが証明された以上、貴重な天然林はすべて林野庁から取り上げて、伐採をやめさせなくてはならない。管理は環境省の手に委ねるべきだ。これは、地球の宝である日本の森を守るための待ったなしの提案だ。

「日本の天然林を救う全国連絡会議」のホームページは、<http://www.geocities.co.jp/tennenrin461/>

問わず、全国に荒れ果てた放置林や二次林が生まれた。丸太を運搬する大型機械を入れた結果、浸食がひどくなり、山の清流の多くはコンクリート製の水路や魚のすめない砂防ダムに姿を変えた。クマ、シカ、イノシシ、サルは餌を求めて里へ下り、畑や果

で膨らんだ。利払いだけでも毎年300億円近くが一般会計からつき込まれている。国民には「生物多様性の維持など公益的機能を第一にする」と約束したが、林野庁は今も天然林の伐採を続けている。愚にもつかない言い訳をくり返し、天然林伐採をやめ

た。林野庁には天然林の保護も活用もできないことが証明された以上、貴重な天然林はすべて林野庁から取り上げて、伐採をやめさせなくてはならない。管理は環境省の手に委ねるべきだ。これは、地球の宝である日本の森を守るための待ったなしの提案だ。

「日本の天然林を救う全国連絡会議」のホームページは、<http://www.geocities.co.jp/tennenrin461/>

長野県黒姫にある私の書斎には、知床で伐採されたミズナラの木片がある。伐採当時に樹齢230年には達していたはずだ。林野庁の命を受けての伐採だったが、やり方がまずかったせいで、倒れる際に周囲の木々と絡み合い、結局、放置されたのだ。この木に行き着くために、樹齢100年を超す落葉樹が少なくとも6本は切り倒されたというのに。林野庁の傲慢さと払った犠牲の大きさに、私はがくせんとした。あの時の衝撃を記憶にとどめるため、木片を持ち帰ったのだ。02年に初めて来日した際、田舎の自然の美しさと多彩さに目を見張った。人口過密なこの島国で、豊かな天然林が

深い感銘を受けた。80年に黒姫に移り住んで初めて、天然林の破壊のすさまじさを知った私は、抗議の声を上げた。以後は、自然破壊を憂える地元民や環境保護活動家たちの招きで、北海道から西表島まで天然林をつぶさに見て回った。天然林が失われていく現実、無関心な国民、政治家と官僚の傲慢さ、環境破壊を正当化しようとする林野庁のたわ言。そのすべてに私は打ちのめされる思いだった。

「日本の天然林を救う全国連絡会議」は、50年から02年

これは何だろう！



これは何だかわかりますか？
発送例会で、Fさんに見せていただいた生きものです。

2月号の答えは、
ガの仲間のイラガの繭（蛹）でした。
よく観てみると、
鳥の卵によく似た色と形ですよ。

色いろいろばなし

山吹や薄暮に浮かぶ一重かな 凡夫

Ｔさんのお庭に咲いた山吹をいただきました。JIS規格にある「やまぶきいろ」はクレヨンやパスの色名としても知られていますね。鮮やかな赤みの黄です。非常に似た色としては、「橙黄色」と「こごしよく」があり、これはJIS規格「橙色（だいたいいろ）」から少し赤みが取れた色合いです。さらに赤みが取れ黄色みが強くなったのが、やはりJIS規格の「黄色」で、これは混色における三原色の一つであり、基本色名ですね。この黄色も山吹の花の色と説明されていて、同じ黄色みのある色でも、赤みの度合いに幅があるようです。「色」がついた形容詞は、「茶色い」と「黄色い」だけです。
。《本のむし》資料は当紙124号で御紹介したものを使わせて頂いています。

源流地探検(2/18)に参加した自然観察指導員の良子さんから、感想を頂きました。

上陽町下横山地区で行われた自然体験の中で、地元で伝わる豆腐作りが再現されました。石臼でゆつくり挽いて作ったものなのでとてもおいしかった。その再現された美味しい豆腐を食べた後に、残った美味しいおからで作った料理を食べました。

その1 おかず用／おから＋キクラゲ＋大根 人参の三杯酢の具と汁

その2 おつまみ用／おから＋白菜の漬け物と汁＋トーパンジャン

これらを混ぜ合わせるだけです。
おすすめですよ。

事務局からのお知らせ

インターネット掲示板に会員の皆様の書き込みをお願いします。
ナイス福岡のアドレスはこのページの一番下に表示しています。

会費振込について

それぞれの会員の皆様の会員期限をタックシール部分に明記してあります。
各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。
なお、会計年度は6月から翌年5月末までです。
郵便振替口座：福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783 年会費：2000円

皆に知らせたいことはありませんか？

皆さんが行っている観察会やイベントの案内、自然保護に関する情報やご意見、お薦めの本の紹介などをお寄せ下さい。原稿は定例会の一週間前までに事務局にお送り頂くとその月の会報に載せることができます。皆さんの情報をお待ちしています。

定例会に参加してみませんか？

本会の運営に関する打ち合わせや情報交換、会報の発送作業を原則として毎月第2金曜の18:00～20:00ごろまで自然案内舎(有)クラブにて行っています。会員の方はどなたでも参加できるのでお気軽にお立ち寄り下さい。皆さんのおこしを心よりお待ちしております！

次回の定例会は、**4月13日(金)**午後6時より事務局で行います。4月号の原稿は、3/31(土)までに届くようにお願いします。

なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

他団体の会報の紹介

- ・NPO法人自然観察指導員埼玉 あらかわ通信 No.138 2007年2月1日
- ・福岡植物友の会 福岡植物友の会会報 平成19年(2007)2月
- ・日本野鳥の会筑後支部 まめわり第71号 2007年3月1日

編集後記

2007年2/9定例発送会は山本勝・福田治・鶴田義明・大塚俊樹・重松尚紀・西村裕美・田村耕作が参加。定例会のために黒糖入りラスクパン(MY)、志摩町のあまくさという大変みずみずしいみかん(TO)、チョコ(KT)の差し入れがあり、感謝しつついただきました。このごろ、冬のしっかりとした寒さ故できる食べ物の話しがよく聞こえてきます。ももの花も、一定の寒さが続かなければ美しい花を咲かせないようです。田字草



お問合せ： 福岡県自然観察指導員連絡協議会
(NAIS Fukuoka : The Nature Interpreter Society of Fukuoka)
代表：冷川昌彦 / 事務局長：大塚俊樹 /
編集：田村耕作・山本勝・松永紀代子 / 会計：宮原俊彦
〒810-0061 福岡市中央区西公園 8-17
自然案内舎(有)クラブ内 TEL & FAX : 092-732-7042
URL : <http://www.kurabird.com/>
掲示板 URL : <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>